



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月4日

上場会社名 株式会社 ユナイテッドアローズ
 コード番号 7606 URL <http://www.united-arrows.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 CEO (氏名) 松崎 善則
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO 管理本部本部長 (氏名) 中澤 健夫
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日

上場取引所 東

TEL 03-5785-6325

配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	29,664	17.4	1,853		2,093		1,323	
2022年3月期第1四半期	25,264	13.8	903		718		648	

(注)包括利益 2023年3月期第1四半期 1,241百万円 (%) 2022年3月期第1四半期 692百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	46.45	
2022年3月期第1四半期	22.72	

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	54,722	30,983	56.6	1,087.33
2022年3月期	59,703	30,069	50.4	1,055.23

(参考)自己資本 2023年3月期第1四半期 30,983百万円 2022年3月期 30,069百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		7.00		12.00	19.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		12.00		20.00	32.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	130,000	9.8	4,800	185.2	5,230	85.0	3,000	309.4	105.28

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	30,213,676 株	2022年3月期	30,213,676 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	1,718,367 株	2022年3月期	1,718,367 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	28,495,309 株	2022年3月期1Q	28,534,303 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
【第1四半期連結累計期間】	
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染者数の減少に伴う行動制限の緩和などにより社会経済活動の正常化が進みました。一方、国際情勢に起因する原材料やエネルギー価格の高騰、円安の進行に加え、中国での感染再拡大による経済活動への制限等を背景とする物価上昇やサプライチェーンの混乱など、先行き不透明な状況が継続しています。衣料品小売業界においても、消費活動に改善が見られるものの、原材料高、円安の進行や物価上昇など、厳しい経営環境も続いています。

このような状況の下、当社は2023年3月期のグループ経営方針に「感動提供 すてきな接客 すてきな商品 ヒトのチカラ モノのチカラ」を掲げています。創業以来、経営をはじめ日々の営業活動においても常にお客様視点を判断軸とし、ヒト（接客・サービス）、モノ（商品）、ウツワ（施設・空間・環境）をバランス良く磨き上げることで、お客様に感動を提供してきたことが当社の強みであると認識しています。この強みに一層磨きをかけ、当社の価値創造の基盤となるお客様価値を高めることを起点に、全てのステークホルダーの価値をバランス良く向上させることを目指しています。

「感動提供」の実現に向けて、既存店を回復させることを重点戦略に定め、「感動接客-販売力の底上げ」、「感動クリエイション-商品力の底上げ」、「新たなUAへの挑戦-積極的なトライアンドエラー」に取り組んでいます。

「感動接客」では、顧客ロイヤルティを測るNPS調査等の分析結果や接客好事例を共有しながら、接客トレーニングや勉強会を実施しています。併せてOMO施策も継続しており、通販サイトでのスタッフスタイリングの積極投稿や、SNSでのライブ配信等のコンテンツと連動した販売促進活動を行うことで、顧客化を促進しました。これらの結果、実店舗への入店客数と買上客数が前年同期比で大幅に改善するとともに、小売+ネット通販既存店売上高前年同期比は120.5%となりました。

「感動クリエイション」では、春夏商品調達の進捗管理をきめ細かく行うとともに、先行予約商品で半歩先の商品提案や訴求を強化しています。併せて適正品番数の見極めや在庫分析を綿密に行うなど、調達計画から在庫管理までを改善し、マーチャンダイジングの精度を向上させています。

「新たなUAへの挑戦」では、成長に資する既存ブランドの再編と新たな挑戦を踏まえた、次期中期経営計画の策定に着手しています。

これらの重点戦略を下支えしつつ、当社の持続的成長も担保するベース戦略として「ES（*）推進」、「DX推進」、「サステナビリティ推進」の3つの戦略も進めています。

（*）ES：（Employee Satisfactionの略。従業員満足を指す。）

感動提供の源となる従業員に対する「ES推進」では、前連結会計年度に実施した従業員意識調査等の回答を基に人事等級制度を改定し、当連結会計年度から運用を開始しています。また、2022年3月の自社通販サイトリニューアルオープンに伴い、店舗スタッフがスタイリング投稿等、OMOの取り組みを行うと、その成果が評価に組み込まれる仕組みを導入しました。

「DX推進」では、お客様への提供価値向上を目指し、新自社通販サイトの操作性等の課題を洗い出し改善を重ねるとともに、CRM（*）プログラムの改定に向けて取り組んでいます。社内の業務効率化に向けては、店舗・オフィス業務の課題を解決する仕組みの導入を進めています。加えて、サプライチェーンのデジタル化を見据えて商品関連業務を担う基幹システムの刷新準備のほか、在庫管理・分析システムのテスト運用等を行っています。

（*）CRM：（Customer Relationship Managementの略。顧客関係管理を指す。）

当社がお客様や社会から永続的なご支持を得るための「サステナビリティ推進」では、当社が設定したサステナビリティ目標である5つのテーマと16のマテリアリティの達成を目指すことに加えて、新たに数値目標を策定しました。「Circularity」「Carbon Neutral」「Humanity」という3つのカテゴリーに紐づく7つの数値目標達成に向けて、具体策を検討、進行しています。

出退店については、引き続き慎重に精査を行ったうえで、ミッド・トレンドマーケットで1店舗の出店を実施した結果、当第1四半期連結累計期間末の小売店舗数は191店舗、アウトレットを含む総店舗数は217店舗となりました。

連結子会社の状況については、株式会社コーエン（決算月：1月）、海外子会社の台湾聯合艾諾股份有限公司（決算月：1月）とも増収となりました。出退店については、株式会社コーエンは2店舗の出店により当第1四半期連結累計期間末の店舗数は89店舗、台湾聯合艾諾股份有限公司は1店舗の出店により当第1四半期連結累計期間末の店舗数は8店舗となっています。

以上により、グループ全体での新規出店数は4店舗、当第1四半期連結累計期間末の店舗数は314店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比17.4%増の29,664百万円となりました。売上総利益は前年同期比24.5%増の16,181百万円となり、売上総利益率は前年同期から3.1ポイント増の54.5%となりました。これは在庫の調達をコントロールし、値引きを抑制したことなどによるものです。販売費及び一般管理費は各項目で売上回復に伴う変動費の増などにより前年同期比3.1%増の14,328百万円となりました。

以上により、当第1四半期連結累計期間の営業利益は1,853百万円（前年同期は営業損失903百万円）、経常利益は2,093百万円（前年同期は経常損失718百万円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は1,323百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失648百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末と比較して4,222百万円（11.0%）減少の34,252百万円となりました。これは、現金及び預金が2,273百万円、商品が1,418百万円、未収入金が538百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して758百万円（3.6%）減少の20,470百万円となりました。これは、減価償却などにより有形固定資産が162百万円、無形固定資産が3百万円、それぞれ減少したこと、および繰延税金資産が478百万円減少したことなどによります。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末と比較して5,919百万円（23.3%）減少の19,518百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が1,422百万円、短期借入金が2,300百万円、未払金が1,639百万円、未払法人税が318百万円、賞与引当金が338百万円、それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して23百万円（0.6%）増加の4,220百万円となりました。これは、出店などに伴い資産除去債務が23百万円増加したことなどによります。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して914百万円（3.0%）増加の30,983百万円となりました。これは、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益により981百万円増加したことなどによります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期の連結業績予想につきまして、2022年5月11日公表の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,593	3,319
受取手形及び売掛金	184	124
商品	20,030	18,611
貯蔵品	516	527
未収入金	11,385	10,846
その他	765	822
流動資産合計	38,475	34,252
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,493	3,401
機械及び装置（純額）	808	774
土地	569	569
建設仮勘定	12	1
その他（純額）	345	318
有形固定資産合計	5,229	5,066
無形固定資産		
その他	1,356	1,353
無形固定資産合計	1,356	1,353
投資その他の資産		
差入保証金	7,049	7,008
繰延税金資産	4,141	3,662
その他	3,453	3,380
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	14,642	14,050
固定資産合計	21,228	20,470
資産合計	59,703	54,722
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,858	7,435
短期借入金	7,800	5,500
未払金	4,434	2,795
未払法人税等	662	343
賞与引当金	801	462
役員賞与引当金	-	6
資産除去債務	79	76
その他	2,801	2,897
流動負債合計	25,437	19,518
固定負債		
資産除去債務	4,164	4,187
その他	32	32
固定負債合計	4,197	4,220
負債合計	29,634	23,738

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,030	3,030
資本剰余金	4,415	4,430
利益剰余金	27,771	28,753
自己株式	△5,006	△5,006
株主資本合計	30,210	31,206
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△141	△223
その他の包括利益累計額合計	△141	△223
純資産合計	30,069	30,983
負債純資産合計	59,703	54,722

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	25,264	29,664
売上原価	12,265	13,482
売上総利益	12,998	16,181
販売費及び一般管理費	13,902	14,328
営業利益又は営業損失(△)	△903	1,853
営業外収益		
受取利息	0	0
為替差益	40	118
仕入割引	14	14
受取賃貸料	3	3
持分法による投資利益	116	61
その他	28	56
営業外収益合計	202	253
営業外費用		
支払利息	7	4
賃貸費用	3	3
その他	5	6
営業外費用合計	16	13
経常利益又は経常損失(△)	△718	2,093
特別損失		
固定資産除却損	17	-
減損損失	26	56
事務所移転費用	3	-
特別損失合計	47	56
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△766	2,037
法人税、住民税及び事業税	31	234
法人税等調整額	△149	478
法人税等合計	△117	713
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△648	1,323
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△648	1,323

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△648	1,323
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△44	△81
その他の包括利益合計	△44	△81
四半期包括利益	△692	1,241
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△692	1,241
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△766	2,037
減価償却費	296	217
無形固定資産償却費	92	97
長期前払費用償却額	102	154
減損損失	26	56
賞与引当金の増減額(△は減少)	△160	△338
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	14	6
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	7	4
売上債権の増減額(△は増加)	878	590
棚卸資産の増減額(△は増加)	△771	1,407
その他の流動資産の増減額(△は増加)	285	15
仕入債務の増減額(△は減少)	△150	△1,615
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△27	△230
持分法による投資損益(△は益)	△116	△61
その他	47	27
小計	△242	2,369
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△7	△4
法人税等の支払額	△62	△409
営業活動によるキャッシュ・フロー	△312	1,955
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△88	△66
資産除去債務の履行による支出	△72	△50
無形固定資産の取得による支出	△340	△185
長期前払費用の取得による支出	△13	△1,274
差入保証金の差入による支出	△54	△2
差入保証金の回収による収入	210	43
その他	△13	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△371	△1,536
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△130	△2,300
配当金の支払額	△0	△311
財務活動によるキャッシュ・フロー	△130	△2,611
現金及び現金同等物に係る換算差額	△44	△81
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△859	△2,273
現金及び現金同等物の期首残高	6,604	5,593
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,745	3,319

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。